



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年3月18日)

ポイント

▶先週(3/11-3/15)は2月の消費動向調査、国内企業物価指数、輸出入物価指数、1月の鉱工業生産指数(確報値)、民間機械受注及び第3次産業活動指数が更新された。

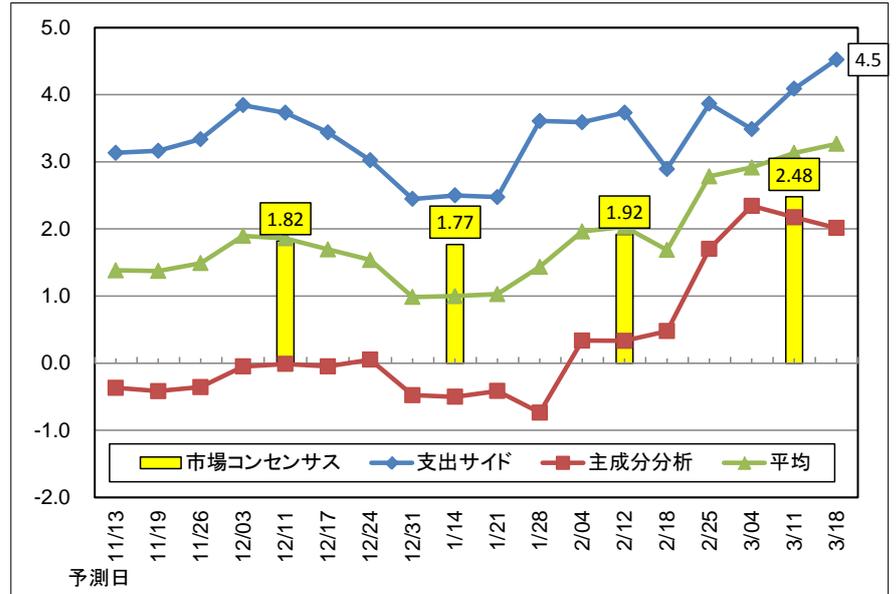
▶これらのデータは民間企業設備、民間企業在庫品増減、政府最終消費支出及び純輸出の予測に影響する。

▶2月の国内企業物価指数は前年比11カ月連続のマイナスとなったが、下落幅は昨年8月から連続して縮小しており、プラス転換は目の前である。背景として円安の影響が大きい。

▶この2カ月、円ベースの輸入物価の伸びは輸出物価のそれを上回っており、その結果、実質ベースの純輸出を押し上げている。実質純輸出は実質GDP成長率の半分程度を説明している。

▶今週のCQM(支出サイド)は、1-3月期の実質GDP成長率を、内需の増加幅は拡大し純輸出が反転拡大するため、同+4.5%と予測する。先週の予測(+4.1%)から上方修正された。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013Q1 (%、前期比年率換算)



<円安の影響は輸出入物価を通じ、1-3月期日本経済を押し上げる。>

先週(3/11-3/15)は、2月の消費動向調査、国内企業物価指数、輸出入物価指数、1月の鉱工業生産指数(確報値)、民間機械受注及び第3次産業活動指数が更新された。これらのデータは民間企業設備、民間企業在庫品増減、政府最終消費支出及び純輸出の予測に影響する。

1月の民間コア機械受注の結果(前月比-13.1%)は失望的であったが、もともと振れが大きいので悲観的になる必要はない。同月の資本財出荷指数(確報値)は同-0.6%と小幅のマイナスにとどまっている。1月の第3次産業活動指数のうち、公務等活動指数は同+0.9%と2カ月ぶりのプラスとなり好調であった。

2月の国内企業物価指数は前月比3カ月連続のプラス。前年同月比では11カ月連続のマイナスとなったが、下落幅は昨年8月から連続して縮小しており、プラス転換は目の前である。この背景として円安の影響が大きい。同月の円レート(93.24円)は前月比4.6%、前年比18.9%それぞれ下落している。この結果、円ベースの輸出物価指数は前年比+10.5%大幅上昇し、4カ月連続のプラス。一方、輸入物価指数は同+13.2%上昇し、4カ月連続のプラスである。

この2カ月輸入物価の伸びは輸出物価のそれを上回っており、その結果、実質ベースでの純輸出を押し上げている。今週の実質純輸出の予測値は+8.104兆円となり、先週の予測(+7.822兆円)から上方修正されている。実質GDP成長率に対する寄与度も+2.0%(年率ベース)となり、成長率の半分近くを説明している。

1-3月期の日本経済は公的需要と純輸出が好調である。今週のCQM(支出サイド)は、同期の実質GDP成長率を、内需の増加幅は拡大し、純輸出が反転拡大するため前期比年率+4.5%と予測する。先週の予測(+4.1%)から上方修正された。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550